

成果の説明書

(氏名) 小熊 仁	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>◆ 科研費（基盤研究 C：個人・分担）に関する研究</p> <p>今年度は最終年度であったことから、下記の調査を実施し成果の取りまとめを行った。</p> <p>① ソーシャルキャピタルの経済価値に関する研究</p> <p>公共交通がもたらすソーシャルキャピタルの経済価値を評価するため、那覇～与論線と福岡～対馬線の利用者を対象に、与論空港ターミナルビル、ならびに対馬空港ターミナルビルにおいてアンケート調査を行い分析の取りまとめを行った。アンケートの期間は与論：2023年9月6日～9月8日、対馬：2023年11月3日～11月5日）であり、回収枚数は与論：139部、対馬：586部であった。</p> <p>② ボランティアの経済価値に関する研究</p> <p>ボランティア交通とボランティア奉仕の経済価値を評価するため、青森県佐井村全世帯を対象にアンケート調査を行い、分析の取りまとめを行った。アンケートの期間は2023年12月13日～2024年1月15日であり、回収枚数は250部であった</p> <p>◆ 高崎市地域課題研究</p> <p>高崎市における高齢者の運転免許証自主返納に影響を与える要因を明らかにするため、前年に引き続き、(公財)高崎交通安全協会において免許返納を行った高齢者を対象にアンケートを行った。アンケートの期間は2023年9月25日～2024年2月20日であり、回収枚数は前年度と合わせ343部となった。</p> <p>◆ その他の研究</p> <p>群馬県道の駅魅力度アップワーキングの成果を取りまとめ、下記の学会で報告し投稿を行った。</p> <ul style="list-style-type: none">宮崎友裕・森田哲夫・小熊仁「道の駅の地域連携を通じた課題改善に関する研究～群馬県道の駅魅力度アップワーキングの事例から～」日本交通学会第83回全国大会,2022年10月8日,愛媛大学城北キャンパス。宮崎友裕・森田哲夫・小熊仁「道の駅の地域連携を通じた課題改善に関する研究～群馬県道の駅魅力度アップワーキングの事例から～」『交通学研究』,第67号,45-52ページ【査読あり】。 <p>◆ 教育活動</p> <p>本年度は、「交通政策論」(前期)、「観光交通論」(後期)、流通経済論(後期)、「基礎演習」(後期)、「演習Ⅰ」(通年)、「演習Ⅱ」(通年)を担当した。「基礎演習」では「航空研究班」「地方鉄道研究班」「都市鉄道研究班」の3つの研究グループに分かれ、航空研究班は大館能代空港を対象に、ANA秋田支店、秋田県、大館市、大館能代空港ビル株式会社のご協力のもと現地でフィールドワークを行った。また、地方鉄道班は天竜浜名湖鉄道を対象とし、掛川市、天竜浜名湖鉄道のご協力のもと現地フィールドワークを実施した。都市鉄道班はJR東日本首都圏本部とソフトバンク株式会社人事部に対しヒアリング調査を行い、成果の取りまとめと翌年度調査テーマの選定を行った。</p> <p>一方、「演習Ⅰ」についても基礎演習と同様「航空研究班」「地方鉄道研究班」「都市鉄道研究班」のグループに分かれ、航空研究班は与論島を対象に、日本航空、日本エアコミューター、琉球エアコミューター、与論町観光課、(一社)ヨロン島観光協会のご協力のもと現地でフィールドワークを行い成果報告を行った。地方鉄道班は富山ライトレールを対象とし、富山市のご協力のもと現地フィールドワークを実施し成果報告を行った。都市鉄道班はJR首都圏8駅を対象に発車ベルと駆け込み乗車の関係に関する実地調査を行い、その成果についてJR東日本首都圏本部に対して報告した。「演習Ⅱ」では、</p>	

年間を通し卒論作成指導を行った(13名全員卒論提出)。最後に、学内業務としては、入試運営委員会と図書館運営委員会の委員として、入学試験および図書館運営関連業務に携わった。

◆ 社会活動

下記の委員会で活動を行った。

- ・ 国土交通省北陸地方整備局関川水系流域委員会委員
- ・ 国土交通省北陸地方整備局手取川水系委員会委員
- ・ 群馬県道の駅魅力度アップワーキングアドバイザー
- ・ 安中市道の駅整備検討委員会
- ・ 高崎・安中信越本線活性化協議会

2 その他の事項

該当なし

3 次年度以降の計画・抱負

今年度は JSPS 科学研究費補助金「ボランティア交通従事者の参加意識・心理とソーシャル・キャピタルの関係に関する研究」基盤研究 C 2019～2023 年度の最終年度であったため、アンケート調査の実施に注力した。次年度は、高崎市地域課題研究の成果も含め早期の成果公表を行い、併せて、JSPS 科学研究費補助金への申請についても積極的に取り組んでいきたい。